

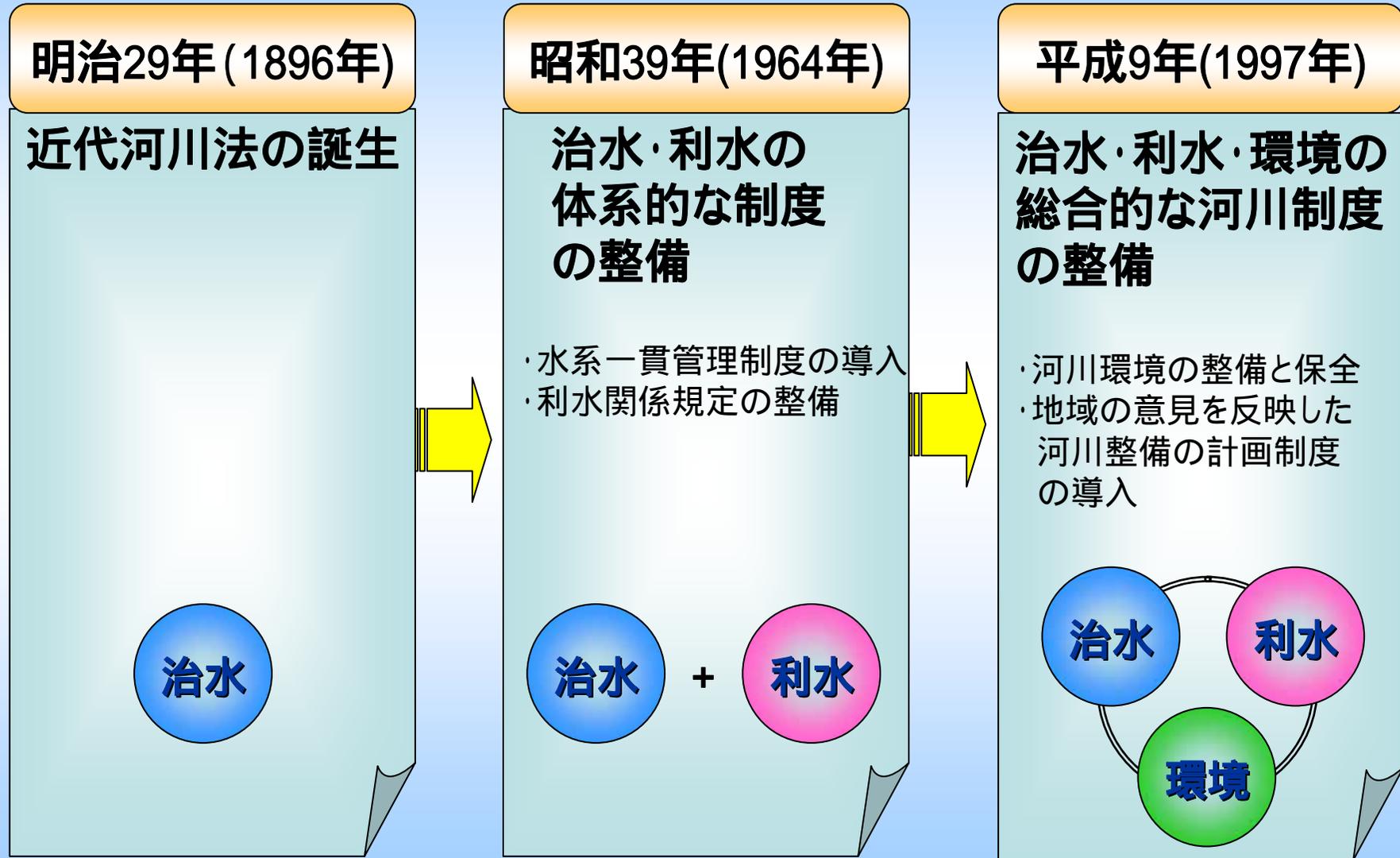
# 手取川水系河川整備計画策定の概要



北陸地方整備局

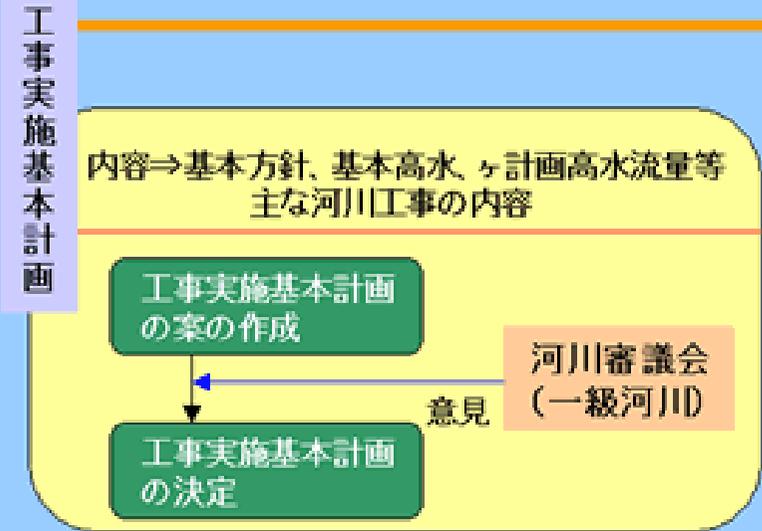
金沢 河川 国道 事務所

# 河川法改正の流れ

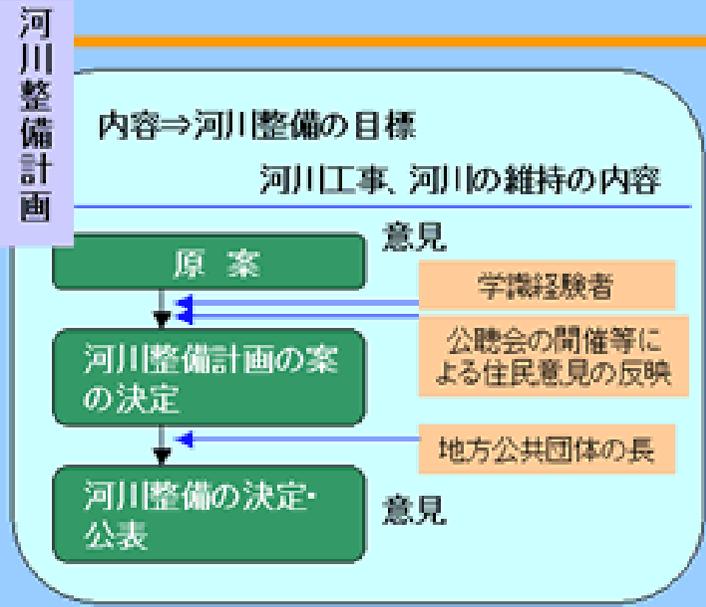
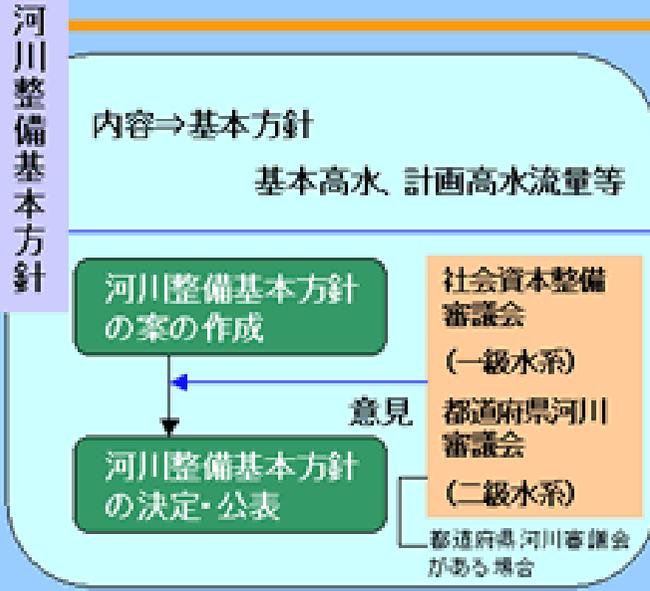


# 河川整備基本方針、整備計画策定の流れ

旧制度



新制度



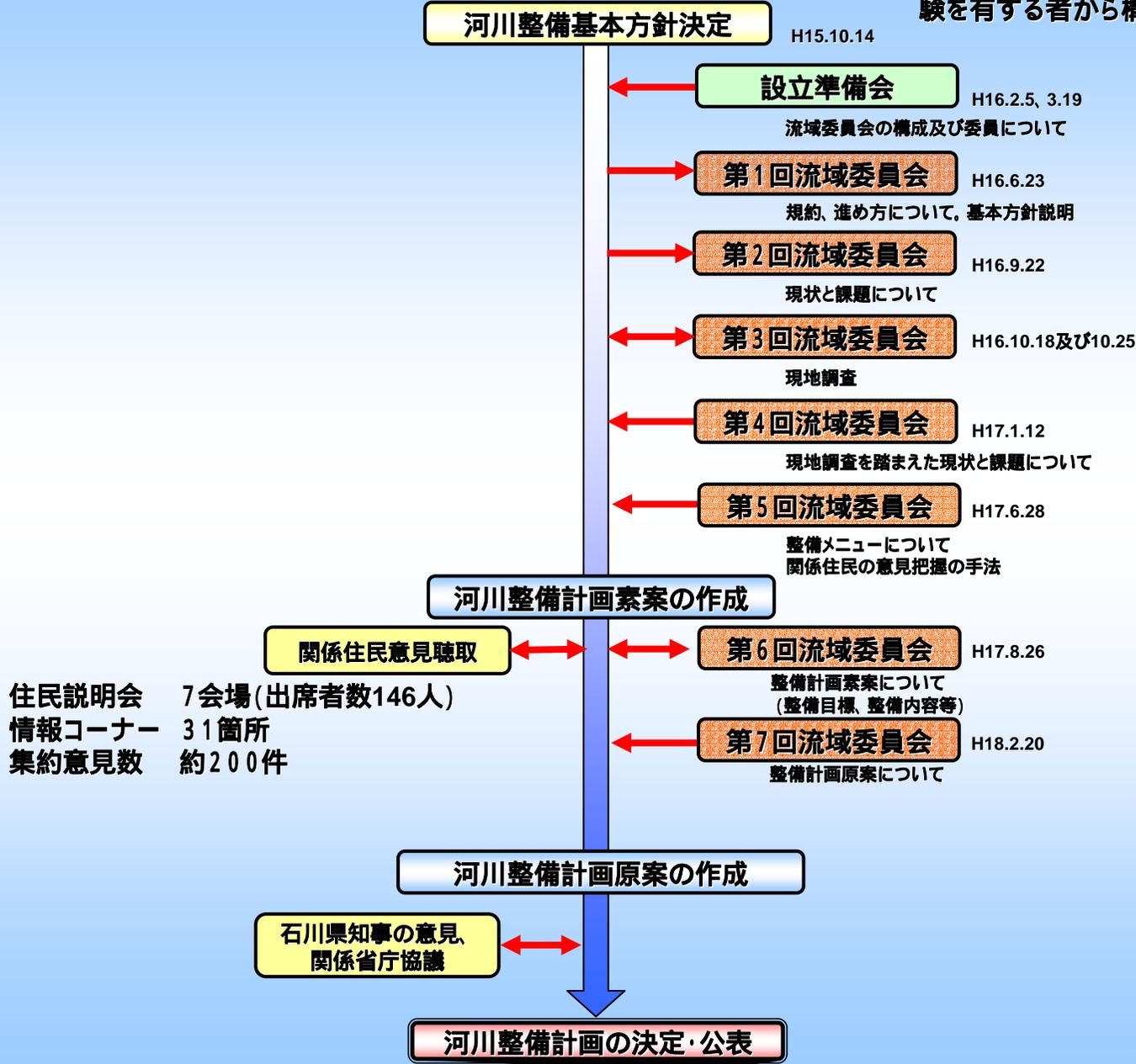
河川工事、河川の維持

## 河川整備計画策定済みの1級(大臣管理区間)河川



# 手取川水系河川整備計画の策定経緯

手取川水系流域委員会は、河川整備計画の原案について意見を伺うために設置するもので、河川法第16条の2第3項に基づき、河川に学識経験を有する者から構成するものです。



# 手取川水系流域委員会委員名簿

(敬称略・専門分野別五十音順)

氏名	専門分野	所属	氏名	専門分野	所属
玉井 信行	河川工学	金沢大学工学部 教授	宮崎 光二	内水面漁業	石川県内水面漁場管理委員会 委員長
辻本 哲郎	河川工学	名古屋大学大学院 教授 手取川リバーカウンセラー	池本 良子	水質	金沢大学工学部 助教授
佐野 修	自然環境 (魚介類)	いしかわ動物園 飼育第二課長 河川水辺の国勢調査アドバイザー	永井 隆一	地域社会	石川県砂防協会会長、白峰村長
富樫 一次	自然環境 (昆虫類)	石川県ふれあい昆虫館 館長 河川水辺の国勢調査アドバイザー	車 幸治	地域社会	手取川流域開発期成同盟会会長
中村 浩二	自然環境 (生態学)	金沢大学自然計測応用研究センター 教授	西田 耕豊	地域社会	石川県治水協会会長、川北町長
中村 正博	自然環境 (鳥類)	石川県総務部総務課 行政情報サービスセンター 日本野鳥の会石川支部 副支部長 河川水辺の国勢調査アドバイザー	山崎 正夫	地域社会	手取川流域開発期成同盟会副会長 旧尾口村長
野崎 英吉	自然環境 (哺乳類)	石川県環境安全部自然保護課 課長補佐 河川水辺の国勢調査アドバイザー	高澤 基	報道	北國新聞社 専務取締役
古池 博	自然環境 (植物)	石川県地域植物研究会 会長 河川水辺の国勢調査アドバイザー	小堀 幸穂	地域経済	鶴来商工会 副会長
中川 耕二	地下水・地質	北陸地盤工学研究会 前会長	長谷川孝徳	歴史・文化 文芸・教育	石川県立歴史博物館 学芸専門員
藤 則雄	地下水・地質	金沢学院大学美術文化学部 教授	平野 俊也	歴史・文化 文芸・教育	前水辺の楽校推進協議会委員長 寺井町立図書館長
村島 和男	農業土木	石川県農業短期大学 教授	三田 薫子	歴史・文化 文芸・教育	作家
吉田 武雄	農業水利	手取川七ヶ用水土地改良区 理事長 石川県土地改良事業団体連合会 副会長	米田 満	歴史・文化 文芸・教育	白山地域自然保護懇話会 座長
鹿島 博史	エネルギー	北陸電力(株)石川支店 技術部長	印：委員長  但し、設立当初のメンバー		

## 流域委員会の開催状況



第1回手取川水系流域委員会  
(平成16年6月23日)



第6回手取川水系流域委員会  
(平成17年8月26日)

平成16年6月23日～平成18年2月20日まで、計7回の流域委員会を開催し意見を頂いた。

## 住民の方々への説明会状況



尾口会場(9月12日)



根上会場(9月16日)

手取川流域圏(白山市、小松市、能美市、川北町、野々市町)に在住の方々を対象に7会場146人の方々に整備計画(素案)の内容を説明し意見の募集を行った。

# 手取川流域圏の住民の方々からの意見募集

手取川流域圏(白山市、小松市、能美市、川北町、野々市町)に在住の方々を対象に、ハガキ、ホームページ、情報コーナーによる意見募集を行い、217件の意見を集約し整備計画に反映させた。

ハガキ:各市町の広報誌と合わせて意見記入用のハガキの付いたチラシを配付し意見募集した。

ホームページ:金沢河川国道事務所のホームページに整備計画素案を公表し意見募集した。

情報コーナー:各市町の庁舎、図書館、公民館等に計31箇所の情報コーナーを設けて意見募集した。

## 御意見(代表的なもの)

### 洪水による災害の防止又は軽減に関するもの

基本高水・情報伝達について	手取川の基本高水流量を6000m <sup>3</sup> /s、計画高水流量を5000m <sup>3</sup> /sとしているが本当に大丈夫か、洪水が発生した場合の地域住民への情報伝達的手段について充実させてほしい、等
伐採・河床掘削について	河道内の土砂の堆積や樹木は、洪水時に流下断面の不足等の影響はないのか、また、影響があるとしたら、どのように対応しているのか、等
支川熊田川・西川について	支川熊田川、西川と手取川本川との合流点処理を実施してほしい、等
堤防の強化について	堤防をもっと強化したほうが良いのではないかと、等
霞堤について	霞堤の保全と、霞堤周辺の新たな自然環境整備をしてほしい、等
手取川ダムについて	手取川ダムの寿命や堆砂対策について教えてほしい、等
内水対策について	手取川本川の洪水時に支川への内水被害が想定されるが、その軽減対策を教えてほしい、等

### 河川の適正な利用及び流水の正常な機能の維持に関するもの

正常流量について	手取川の流水の正常な機能を満足する目標流量(正常流量)を確保してほしい、等
地下水について	手取川扇状地域の豊富な地下水を利用した企業活動のため、地域住民が利用する地下水が枯渇することが考えられるが、地下水の使用規制はどのように考えているのか教えてほしい、等
水質について	手取川の水をきれいにしてほしい、濁りをなくしてほしい、等

### 河川環境の整備と保全に関するもの

環境を活かした川づくりについて	周辺の自然環境や生物の生息環境に配慮した河川工事をしてほしい、等
河川敷等の利用について	自然に優しく、人が利用しやすい河川空間を整備してほしい、等

## 美しい景観



手取溪谷



田園風景  
出典 いしかわの自然百景



石の河原



コアジサシ



遡上するサケ

## 豊かな自然

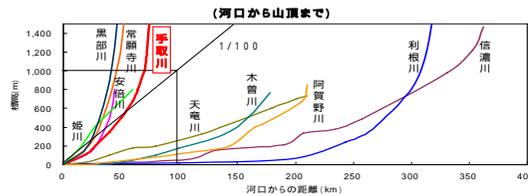


ブナ林



トミヨ

## 河床勾配が急である



平均河床勾配 1 / 27

# 手取川の特徴

## 広大な扇状地を有する急流河川



手取川扇状地

## 多方面に利用



サケ釣り

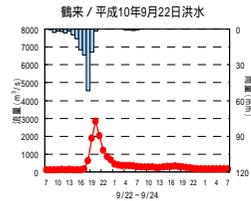


野外学習

## 流れが激しい



洪水流(S9出水)



洪水の立ち上がり  
りが早い

## 激しい土砂移動



上流の崩壊地

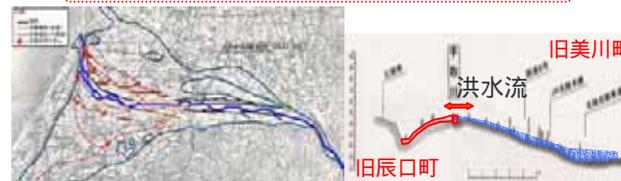


交互砂州(昭和30年)



侵食状況

## 一気に広がる浸水域



昭和9年の浸水区域

天井川

## 豊富な地下水



河川の伏没 昭和59年(1984)



下流の電子部品工場



湧水

# 手取川の現状と課題



河岸段丘を形成

土砂生産の激しい上流域



美しい景観

ダムの適正管理・運用

堆砂対策  
水質維持



豊かな自然

- 急流河川の特徴を踏まえた堤防強化
- 河道内の樹林化対策
- 氾濫被害の軽減
- 土砂動態の把握
- 良質な水質の維持
- 流況の改善
- 多様な生物の生息、生育環境の保全
- 適正かつ多様な河川利用の推進

流下能力向上(下流部)



手取川下流部



手取川ダム

凡 例	
	流域界
	県境
	市町境
	ダム
	山

## 手取川水系河川整備基本方針概要 (H15.10策定)

(1) 基本高水のピーク流量、並びにその河道及び洪水調節施設への配分に関する事項

河川名	基準地点	基本高水のピーク流量 (m <sup>3</sup> /s)	洪水調節施設による調節流量 (m <sup>3</sup> /s)	河道への配分流量 (m <sup>3</sup> /s)
手取川	鶴来	6,000	1,000	5,000

(2) 主要な地点における計画高水流量に関する事項





# 整備メニューの概要(主なもの)

# 流下能力の向上

手取川水系河川整備基本方針で定めた計画高水流量(鶴来地点:5,000m<sup>3</sup>/s)を流下させることを目標に整備を進める。

## メニュー

### 1) 下流部の流下能力不足解消

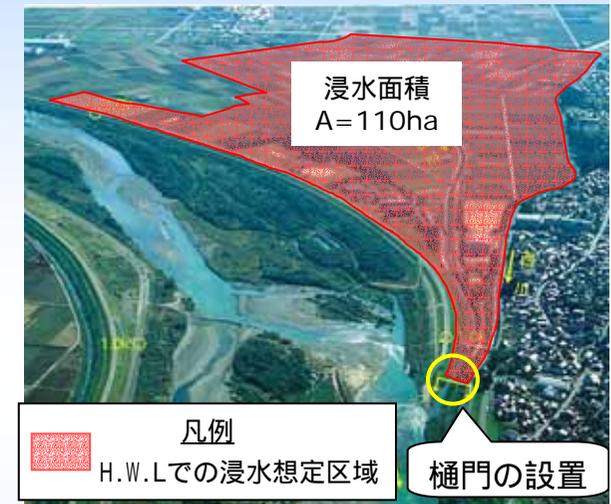
( 樹木群の計画的伐採、 低水護岸(重要水防箇所の整備)、  
河床掘削、 砂州の状況に応じて河床掘削)

### 2) 樋門設置(熊田川・西川の合流部)

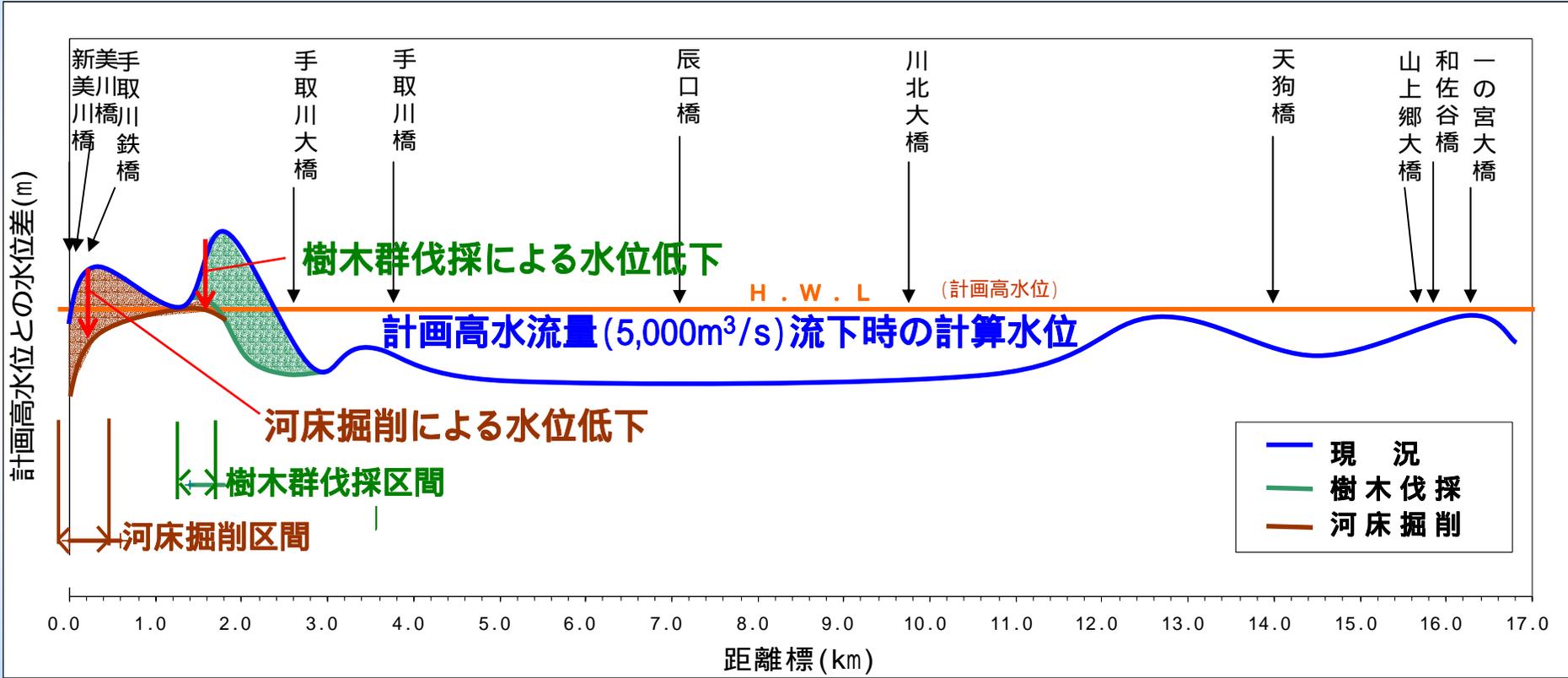
### ・築堤

### ・適正な樹木管理

1) 2)の順番  
に整備を実施予定



## 目標達成時の効果(イメージ)



## 河川整備後(30年後)の水位

# 急流河川の特徴を踏まえた堤防強化

急流河川における洪水特有の強いエネルギーに対する堤防の安全性を確保するため、特に危険な区間について質的整備を進め、氾濫被害の防止を図る。

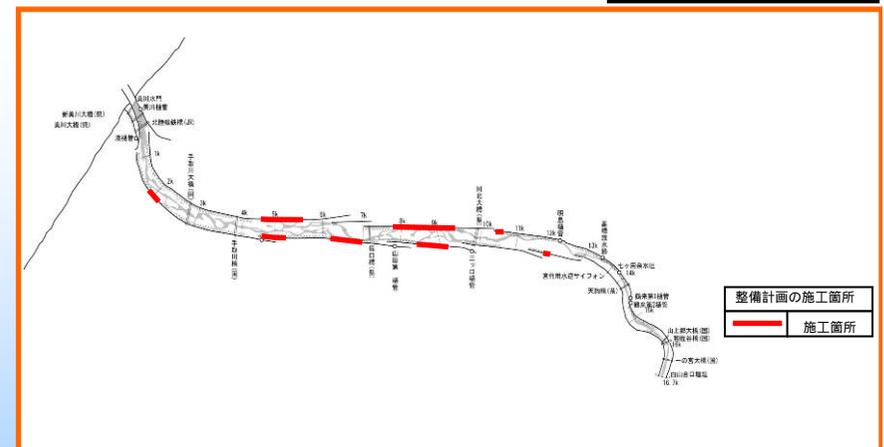
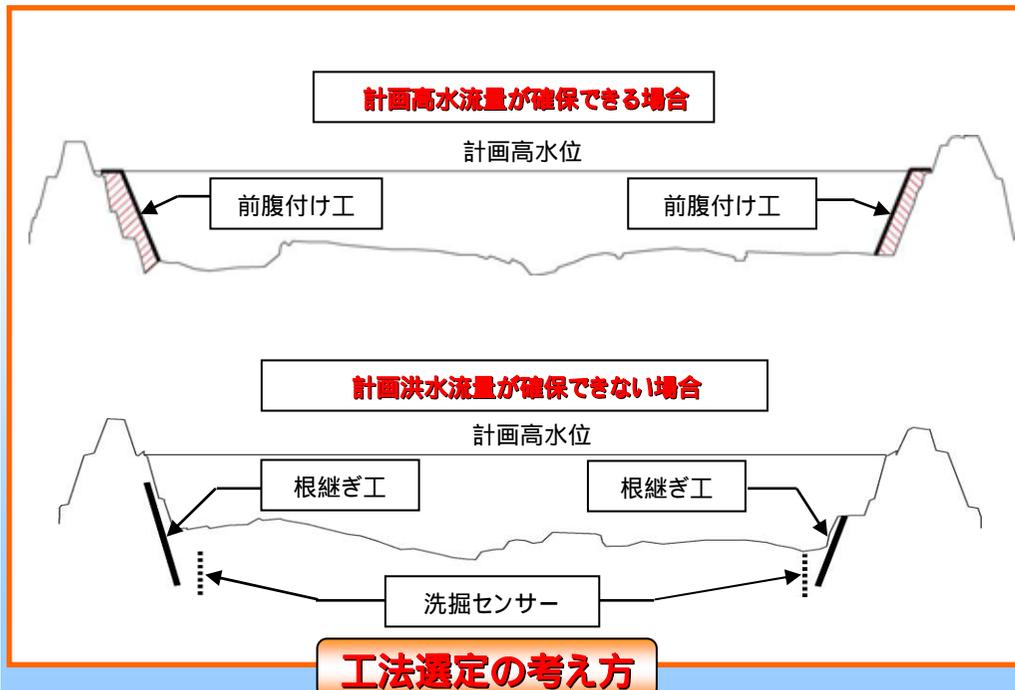
## メニュー

### 急流河川対策

**前腹付け工(盛土等)**・・・流下能力が確保できる箇所

**根継ぎ工**・・・・・・・・・・・・・・流下能力が確保できない箇所

H16.10.20台風23号出水での侵食状況

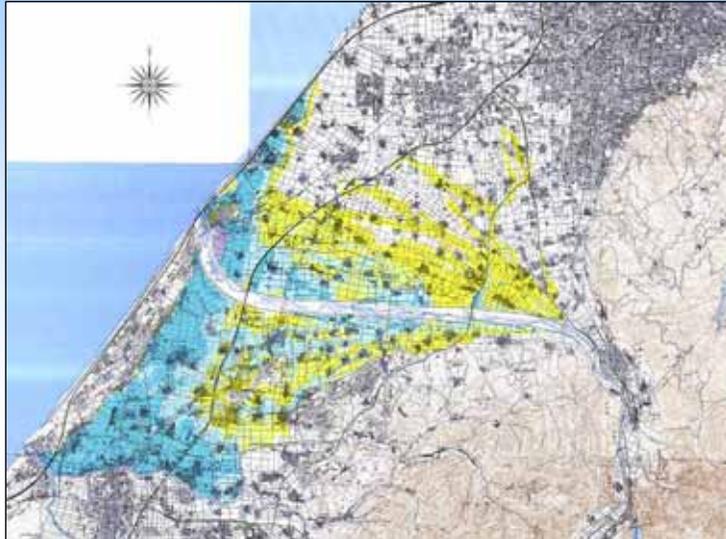


## 対策実施箇所

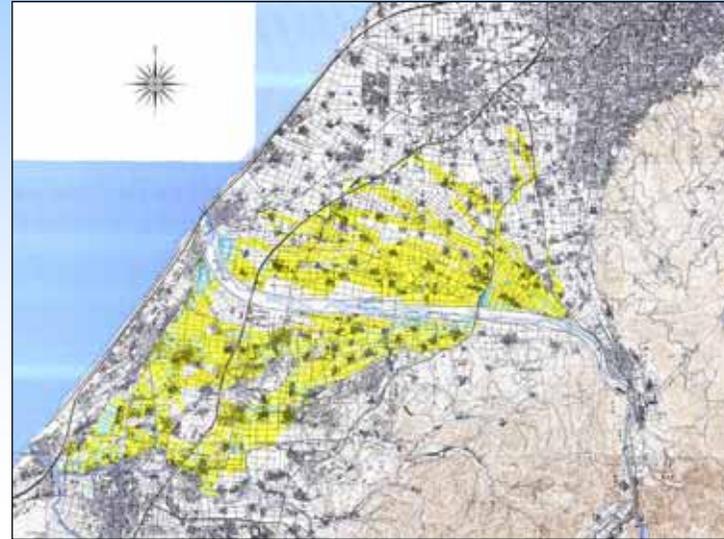
堤防の安全度及び背後地の想定される被害状況より優先区間を設定。

# 急流河川の特徴を踏まえた堤防強化

## 目標達成時の効果(試算)



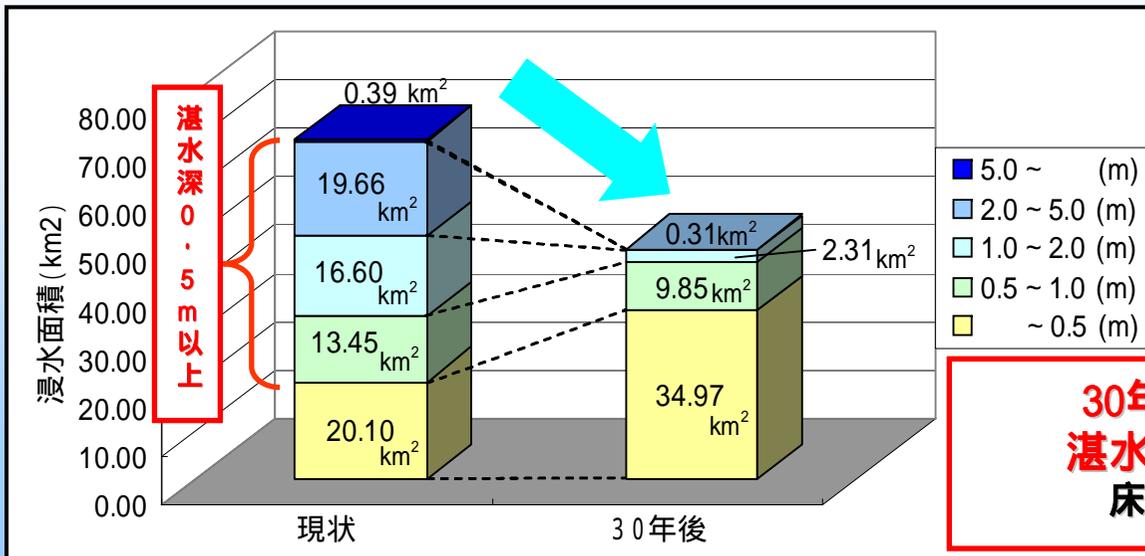
1特に危険な地点での破堤を想定した場合の氾濫域(平成16年末時点)



2河川整備後の氾濫域(30年後)

凡例  
浸水した場合に想定される水深(ランク別)

Yellow	0.5m未満の区域
Light Green	0.5~1.0m未満の区域
Light Blue	1.0~2.0m未満の区域
Dark Blue	2.0~5.0m未満の区域
Purple	5.0m以上の区域



1 特に危険な地点とは、平成15年の河道地形と平成16年度末時点の施設整備状況をもとに、想定される洗掘や侵食により破堤する危険性が特に高い地点

2 30年後の氾濫域とは、急流河川対策等の整備済区間は、洪水時に破堤しない条件で氾濫シミュレーションを実施し、浸水エリアを表した。

**30年後には、0.5mを超える  
湛水深の面積が大幅に減少  
床上浸水面積が約1/4に減少**

## 多様な生物の生息・生育環境の保全

バランスのとれた河川環境の保全が図られるよう配慮しつつ、石川県の名の由来となった手取川の原風景である石の河原の復元に向けて取り組む。

### メニュー

- ・砂礫地を好む生物の生息・生育環境の保全・復元
- ・環境面にも配慮した適正な樹木管理
- ・河川工事実施の際には生物の生息環境に配慮
- ・環境調査の継続的な実施と河川工事への反映

